



# A NEWS BULLETIN

国際病理アカデミー日本支部

2025 Number 1

Published quarterly  
by the Japanese Division  
of the International  
Academy of Pathology

## OFFICERS

### PRESIDENT

T. Tsuzuki, M.D. (-'27)  
Aichi Medical University

### PAST PRESIDENT

Y. Oda, M.D. (-'27)  
Kyushu University

### VICE PRESIDENT

T. Kiyokawa, M.D. (-'27)  
Jikei University

### PRESIDENT-ELECT

K. Harada, M.D. (-'27)  
Kanazawa University

### SECRETARY-TREASURER

T. Nagao, M.D. (-'27)  
Tokyo Medical University

### COUNCILLORS

S. Aishima, M.D. (-'25)  
Kyushu University  
S. Minamiguchi, M.D. (-'25)  
Fujita Health University  
T. Kondo, M.D. (-'26)  
University of Yamanashi  
R. Watanabe, M.D. (-'26)  
St. Marianna University  
T. Ushiku, M.D. (-'26)  
The University of Tokyo  
R. Ohashi, M.D. (-'27)  
Niigata University  
K. Kohashi, M.D. (-'27)  
Osaka Metropolitan University

### COMMITTEE CHAIRS

#### Public Relations Committee

M. Hisaoka, M.D. (-'27)  
University of Occupational and  
Environmental Health

#### Education Committee

T. Kondo, M.D. (-'27)  
University of Yamanashi

#### Young Investigator Award

#### Nomination Committee

H. Haga, M.D. (-'27)  
Kyoto University

#### Awards Nomination Committee

O. Matsubara, M.D. (-'27)  
Hiratsuka Kyosai Hospital

#### Finance Committee

T. Yoshino, M.D. (-'27)  
Okayama University

#### Nomination Committee

Y. Oda, M.D. (-'27)  
Kyusyu University

#### International Conjoint Meeting Committee

T. Moriya, M.D. (-'27)  
Kawasaki Medical University

#### International Exchange Committee

M. Mino-Kenudson, M.D. (-'27)  
Massachusetts General Hospital,  
Boston

## 変化する医療と病理学：国際病理アカデミー 日本支部（JDIAP）の新たな挑戦



国際病理アカデミー日本支部（JDIAP）会長 都築豊徳

会員の皆様、新年を迎え、心よりお慶び申し上げます。私は愛知医科大学病理診断学講座の都築豊徳と申します。今年1月から3年間、JDIAPの会長を務めることとなりました。小田義直前会長からこの重責を引き継ぎ、身の引き締まる思いで取り組んで参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。私がJDIAPの理事に選出されたのは2013年、前任地である名古屋第二赤十字病院に所属していた時でした。その後、常任幹事、次期会長を経て、現在の任に就いております。

### 国際感覚を持った病理医の育成

JDIAPの活動目的は「病理学・病理診断学の教育」ですが、その根幹には「国際的な視野を持った病理医を育成する」という重要な課題があります。現在、JDIAPは台湾支部、韓国支部と毎年交互に合同カンファレンスを開催し、症例検討を通じた活発な交流を行っています。COVID-19の影響で中断していた時期もありましたが、昨年4月には台湾との交流事業が再開し、第8回日台スライドカンファレンスは京都で大盛況のうちに幕を閉じました。そして、今年の12月には北九州市で第17回日韓合同スライドカンファレンスが開催される予定です。会員の皆様には、ぜひこれらのカンファレンスにご参加いただき、海外の病理診断の最先端に触れ、国際的な人的ネットワークを広げていただきたいと思います。

また、日本病理学会との共催事業として、アジア各国から病理医を招聘するプログラムも実施しています。JDIAPとしても、日本病理学会のアジア各国との交流事業を積極的に支援してまいります。さらに、米国・カナダIAP支部(USCAP)との連携も継続し、機関紙「Modern Pathology」や「Laboratory Investigation」をUSCAP会員価格で購入できる体制も整備しています。このように、JDIAPは海外支部との交流を深め、「国際性を持った病理医の育成」を使命として活動してまいります。

### 時代の要請に応える情報提供

近年の科学技術の進歩は目覚ましく、病理医を取り巻く環境も大きく変化しています。次世代シーケンサーによるがんゲノム医療の進展、病理組織標本のデジタル化、人工知能の画像診断への応用など、新たな技術が次々と登場しています。病理診断は、治療薬剤の選択、手術方法、集学的治療の決定に不可欠となり、病理医の役割は従来の診断業務にとどまらず、より積極的な患者治療への関与が求められるようになりました。

しかし、これらの情報を十分に理解し、臨床に活かすためには、常に最新

の知識を習得する必要があります。JDIAPは、会員の皆様がそのような知識を共有し、研鑽を積むための場を提供できるよう尽力してまいります。

### JDIAPの新しい体制

昨年までは小田義直前会長を中心に、金沢事務局の金沢大学の原田憲一先生並びに玉野裕子様のご献身的な支えにより、JDIAPが運営されてきました。この場を借りて深く感謝をいたしたいと思っております。今年度より、JDIAPの体制を新たにいたしました。長年、JDIAPを支えてくださっている常任幹事（Secretary-treasurer）には、東京医科大学の長尾俊孝先生にご就任いただきました。また、それに伴い事務局機能を一本化し、田中美千代様にお手伝いをお願いすることとなりました。松原修先生には引き続き御助言をお願いしております。金沢大学の原田憲一先生には、次期会長として引き続きJDIAPを支えていただきます。

毎年秋に開催している教育セミナー（シンポジウム、スライドセミナー）は、JDIAPの重要な活動の一つです。教育委員長（教育担当）には、山梨大学の近藤哲夫先生にご就任いただき、教育委員会の皆様と共に、JDIAP役員一丸となってセミナーの企画・運営に取り組んでまいります。

社会の情報化が加速する中、JDIAPとしても従来の活動を見直し、時代のニーズに合った情報発信が必要だと感じています。試行錯誤を重ねながら、会員の皆様にとって有益な情報提供の場を構築していく所存です。長年ご好評をいただいている「ふぁんだあめんたる」についても、時代の要請に合わせた新体制を構築し、会員の皆様にご満

足いただけるコンテンツを提供できるよう努力いたします。

### 第36回IAP Congress 2026について

小田義直前JDIAP会長のもと、2026年10月8日～13日に福岡市にてIAP Congress 2026が開催されます。日本でのIAP Congress開催は、1966年の京都、2000年の名古屋に続き、4半世紀ぶり3度目となります。この貴重な機会に、日本のプレゼンスを示し、世界中の病理医と交流を深めることができるよう、JDIAPとしても全面的に協力してまいります。会員の皆様には、ぜひ多数ご参加いただきますようお願いいたします。

### 最後に

会員の皆様にご満足いただけるJDIAPを築き上げるため、常に新しいことに挑戦し、進化を続けていきたいと考えております。そのためにも、会員の皆様のご協力と忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

## 2025年IAP日本支部新理事・役員一覧

### 理事・役員

会長	都築 豊徳 愛知医科大学医学部病理診断学講座
前会長	小田 義直 九州大学大学院医学研究院 形態機能病理学

## 目 次

1. 変化する医療と病理学：国際病理アカデミー日本支部（JDIAP）の新たな挑戦 …… 都築豊徳 ……	1
2. 2025年IAP日本支部新理事・役員一覧 ……	事務局 …… 2
3. 新理事抱負 ……	大橋瑠子・孝橋賢一 …… 4
4. 訃報について ……	4
5. 2024年IAPタイ支部annual meeting参加報告 ……	清川貴子 …… 5
6. 第114回日本病理学会総会 コンパニオンミーティング（案内） ……	原田憲一 …… 6
7. 第17回日韓合同スライドカンファレンスについて（案内） ……	久岡正典 …… 6
8. 事務局よりお知らせ・事務局改変のお知らせ ……	事務局 …… 7
9. IAP日本支部入会の案内 ……	事務局 …… 7
10. Upcoming Meetings ……	8
11. JDIAP賛助会員（再掲） ……	8
12. 編集後記 ……	森谷卓也 …… 8

副会長 清川 貴子  
東京慈恵会医科大学病理学講座  
次期会長 原田 憲一  
金沢大学医薬保健研究域医学系  
人体病理学  
常任幹事 長尾 俊孝  
東京医科大学人体病理学分野  
広報担当 久岡 正典  
産業医科大学第1病理学  
教育担当 近藤 哲夫  
山梨大学医学部人体病理学講座  
学術奨励賞担当  
羽賀 博典  
京都大学医学部附属病院病理診断科・  
病理部  
合同会議担当  
森谷 卓也  
川崎医科大学病理学  
理事 相島 慎一  
九州大学大学院医学研究院  
構造病態病理学分野  
南口 早智子  
藤田医科大学医学部病理診断学講座  
近藤 哲夫  
渡邊 麗子  
聖マリアンナ医科大学病理学  
(診断病理)  
牛久 哲男  
東京大学大学院医学系研究科  
人体病理学・病理診断学  
大橋 瑠子  
新潟大学大学院医歯学総合研究科  
分子・診断病理学分野  
孝橋 賢一  
大阪公立大学大学院医学研究科  
診断病理・病理病態学  
会計監事 吉野 正  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
病理学

## 広報委員会

委員長 久岡 正典  
(ブレチン担当)  
副委員長 森谷 卓也  
委員 近藤 哲夫  
(ソーシャルメディア担当)  
委員 渡邊 麗子  
委員 大橋 瑠子  
委員 孝橋 賢一

## 教育委員会

委員長 近藤 哲夫  
副委員長 相島 慎一  
委員 久岡 正典

委員 南口 早智子  
委員 牛久 哲男  
委員 九嶋 亮治  
滋賀医科大学医学部病理学講座  
(人体病理学部門)  
委員 湊 宏  
石川県立中央病院病理診断科  
委員 松原 修  
平塚共済病院病理診断科  
(兼 ふぁんだめんたる担当)

## 学術奨励賞選考委員会

委員長 羽賀 博典  
副委員長 相島 慎一  
委員 渡邊 麗子  
委員 牛久 哲男  
委員 山元 英崇  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
病理学分野(腫瘍病理)  
外部委員 (日本病理学会から1名)  
(日本臨床細胞学会から1名)

## Award選考委員会

委員長 松原 修  
副委員長 長村 義之  
日本鋼管病院病理診断科  
委員 岩崎 宏  
福岡大学医学部総合医学研究センター  
委員 橋本 洋  
株臨床病態医学研究所

## 理事指名委員会

委員長 小田 義直  
副委員長 吉野 正  
委員 松原 修  
委員 長村 義之  
委員 清川 貴子  
委員 原田 憲一  
委員 長尾 俊孝  
委員 南口 早智子  
委員 牛久 哲男  
オブザーバー  
都築 豊徳

## 合同会議実行委員会

委員長 森谷 卓也  
副委員長 柳井 広之  
岡山大学病院病理診断科  
委員 吉野 正  
委員 加藤 良平  
伊藤病院病理診断科  
委員 渡邊 麗子  
委員 孝橋 賢一

委員 山元 英崇

## 国際交流委員会

委員長 M. Mino-Kenudson  
Massachusetts General Hospital,  
Boston

委員 木田 正俊  
University of Vermont College of  
Medicine

委員 大島 喜世子  
Johns Hopkins Bayview Medical  
Center

委員 原田 秀子  
The University of Alabama at  
Birmingham

## COI委員会

委員長 都築 豊徳

委員 原田 憲一

委員 長尾 俊孝

委員 羽賀 博典

## IAP本部

Past President 長村 義之

Vice President Asia 松原 修

## 事務局

JDIAP学会事務局

平尾 みゆき

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

アカデミーセンター

TEL : 03-6824-9374

FAX : 03-5227-8631

E-mail : jdiap-post@as.bunken.co.jp

IAP日本支部事務局

常任幹事 長尾 俊孝

担当 田中 美千代

jdiap-office@iapjapan.org

公認会計士事務所

香川 誉夫

## 新理事の抱負



新潟大学大学院医歯学総合研究  
科 分子・診断病理学分野  
大橋瑠子

この度IAP日本支部理事に就任いたしました，新潟大学の  
大橋瑠子でございます。実は  
私は10年ほど前まで，本学  
のミャンマー支援事業の1回を除き公私とも海外に行ったことがありませんでした。興味がない

かったわけではなく，当院が過度の病理医不足で  
国内外学会参加もままならない時代を過ごし，  
やっと若手が増え留学の機会を得たところでコロ  
ナ禍となり，気付くと学内はもとより日本全体で  
内向きと円安が進行していました。コロナ禍の功  
罪で，オンライン会議でもある程度国際交流可能  
と知った一方で，対面の交流に勝るものはないこ  
とも実感しています。自身の体験を反面教師に，  
IAP日本支部の企画とその継続を通じて，次世代  
に向けて国際的交流機会の充実とネットワーク強  
化を目指します。私自身も病理医として国内外の  
多くの先生方と共に交流し，共に楽しみながら成  
長，勉強していけるよう精一杯尽力してまいります。  
どうぞ宜しくお願い申し上げます。



大阪公立大学大学院医学研究科  
診断病理・病理病態学

孝橋賢一

この度，新理事に就任させて  
いただきました大阪公立大学  
の孝橋と申します。私が初め  
てIAP関連行事に参加したの  
は，USCAPのJapan Nightであつたと記憶してお  
ります。海外では日本国内と違って何故か距離が  
近く感じられ，回を重ねる毎に，いろいろな先生  
と知り合いになる事が出来ました。今でも当時の  
思い出話に花が咲くことがあります。会員の皆様  
におかれましても，海外に限らず様々なIAP関連  
行事を通じて色々な先生方との距離を縮めていた  
だければと思います。ちょうど2026年には九州  
大学の小田義直会長の下，四半世紀ぶりに日本(福  
岡)でIAP総会が開催されます。IAP福岡大会では，  
WHO分類などでおなじみの海外Top Runnerによる  
Keynote lectureや貴重な症例を経験できるス  
ライドセミナーなどが企画されています。また，  
様々なイベント予定されていますので，是非参加  
いただくと幸いです。私も皆様のご要望に沿え  
るべく，精一杯努力していく所存です。

## 訃報について

皆様に悲しいニュースをお知らせいたします。  
東京慈恵会医科大学客員教授でIAP日本支部名誉  
会員かつ前IAP本部長および前IAP日本支部会  
長の牛込新一郎先生が，ご闘病の末去る2025年  
1月16日にご逝去されました。ここに謹んで哀  
悼の意を捧げご冥福をお祈りしますと共に，長年

にわたるIAP及び当日本支部へのご貢献に対して深く感謝の気持ちを表したいと思えます。葬儀に際してIAP日本支部より心ばかりながら供花をお届けしました。なお、牛込先生の生前のご功績などを追悼文としてまとめ、News Bulletin 2号に掲載する予定です。

## 2024年IAPタイ支部 annual meeting参加報告

IAP日本支部副会長  
東京慈恵会医科大学 病理学講座  
清川貴子

2024年11月13日から15日にタイのバンコクで開催された第63回IAPタイ支部annual meetingに招待され、現地で講演しました(写真1, 写真2)。2022年にも招待講演をしたことがありますが、当時はWEB開催でした。今回私が要請された講演は、婦人科病理の2項目(それぞれ質問時間を含めて40分)で、演題は「Cervical glandular lesions : diagnostic pearls and pitfalls」と「Selected topics on the female peritoneum」です。本学会は、国外から招いたKeynote speakerおよび臓器別の専門家の講演と一般演題で構成され、言語は英語に統一されていました。ちなみに、タイの医学部の教育はタイ語で行われるものの、病理診断報告書は英語が用いられるとのことです。

今年の参加者は計401名で、国別内訳はタイ



写真1 2024年IAPタイ支部annual meetingのポスター



写真2 講演後にDr. Songkhun Vinyuvat (past president of Royal Thai Society of Pathologist) から記念品を贈られる筆者

290名のほか、マレーシア29名、フィリピン21名、オーストラリア14名、ベトナム10名、その他39名と外国からの参加者も少なからずいて、これは例年の傾向とのことです。参加費は事前登録か、勤務地がタイか外国か、病理医かレジデントかで細かく設定され、早期事前登録をした場合タイの病理医が6,000タイバーツ(約26,400円)、タイのレジデントは5,000タイバーツ(約23,000円)でした。参加者は、当日registrationデスクで名札を受け取る際にタイ観光局からのかわいらしい象のキーホルダーもプレゼントされていました。私はIAP 2026の宣伝用に日本からパンフレット、ピン、飴を持参し、IAPタイ支部のご厚意によって個々の参加者に手渡ししていただきました(写真3)。

会場はEastin Grand Hotel Phayathaiというコロナ禍直前に開業した五つ星ホテルで、講演会場はもちろん、宿泊した客室も豪華で快適でした(写真4, 5)。休憩時にはコーヒーやお茶のほか軽食が出され、昼食は3日間ともホテル内のbuffet形式のレストランが貸し切れ、参加者には昼食券が配られていました。そのせいで、企業によるランチョンセミナーは閑古鳥が鳴いている状



写真3 Registration desk : タイ以外の国からの参加者用の受付もある



写真4 学会場と参加者



写真5 休憩時間の風景

態でした。何故こんなにお金がかげられるのか  
いたところ、同ホテルの開業直後にコロナ禍で客  
足が不良となった時期に会場として予約したこ  
とが幸いし、今では考えられない低価格で充実  
したサービスつきの契約ができたとのことでした。

11月とはいえ常夏のタイは連日蒸し暑く、小  
雨の日もありました。私にとってタイを訪れる  
のは2014年の第30回IAP以来2度目で、町は  
大きく変わっていましたが、素朴でホスピタ  
リティーにあふれるタイの人々の気質に変わ  
りはありませんでした。講演時の質問や会  
長招宴を含めて多くのIAPタイ支部会員と  
親しく話す機会が得られましたが、概して  
親日的であり、福岡のIAP 2026には  
ぜひ参加したいとの嬉しい言葉が多くきか  
れました。さらに、これまでの日本の病理医  
や臨床細胞学会会員との交流の深さがうか  
がえる話も聞くことができ、今日のタイと  
日本の病理医の良好な関係は、諸先輩方  
の絶え間ない努力の結果であることを改めて  
感じました。

本原稿執筆にあたり、資料や写真を提供し  
て下さったIAPタイ支部、特に同理事のDr.  
Natkrita Pohthipornthawat (King Chulalongkorn  
Memorial Hospital病理医) に深謝申し上げます。

## 第114回日本病理学会総会 コンパニオンミーティング (案内)

次期会長 原田憲一

4月に仙台市で開催される第114回日本病理学  
会総会(古川徹会長)において、以下の要領で  
IAP日本支部主催のコンパニオンミーティ  
ングを行います。会員の皆様には多数ご参  
加いただきますよう宜しくお願いいたしま  
す。

表題：第114回日本病理学会総会 コンパニ  
オンミーティング5

『国際病理アカデミー日本支部』

日時：4月17日(木) 18:40~20:10

会場：F-1会場(仙台国際センター会議棟  
3F 白樺1)

モデレーター：原田憲一(金沢大学)、  
松原 修(平塚共済病院/がん研)

1：JDIAPの紹介

都築豊徳(愛知医科大学, JDIAP会長)

2：講演テーマ『腎腫瘍の新潮流』

「小児例について」

孝橋賢一 大阪公立大学大学院医学研究科  
診断病理・病理病態学

「成人例について」

大橋瑠子 新潟大学大学院医歯学総合研究  
科分子・診断病理学分野, 新潟大学  
医学部臨床病理学

3：IAP Congress 2026 in 福岡の紹介

小田義直(九州大学, IAP 2026 President)

## 第17回日韓合同スライド カンファレンスについて (案内)

産業医科大学第1病理学 久岡正典

令和7年12月5日(金)~6日(土)の日程で、  
表記カンファレンスを北九州市の小倉で開  
催いたします。前回は2019年の11月末に  
韓国釜山(コモドホテル)で開催されま  
したが、その後COVID19感染症拡大のた  
めに開催予定が延期となり、今回6年ぶ  
りとなる対面開催を目指して現在鋭意準  
備中です。会場の北九州国際会議場はJ  
R小倉駅から徒歩5分と便利が良く、周  
辺には小倉城や門司港レトロなどの見ど  
ころも少なくありません。概要等につい  
ては専用WEBサイト(<https://iap17th.com>)にも掲載して  
いますので

どうぞご覧ください。会員の皆様には多数ご参加  
いただきたく、何卒宜しく願いいたします。



北九州国際会議場

## 事務局よりお知らせ

- ・2025年（令和7年）の会費請求書を昨年末に  
お送りしています。まだお支払いがお済みでない  
会員は手続きをお願いします。  
－名誉会員・シニア会員の方は会費免除のため  
請求はありません。  
－専門医資格を取得されたジュニア会員は、  
2025年より一般会員へ移行していただきます。  
お手元に届く会費請求書をお確かめのう  
えご納入ください。
- ・会員情報に変更のある方は、マイページにて変  
更手続きをお願いします。  
マイページのID・PWがご不明な方、メールア  
ドレスを未登録の方は、JDIAP学会事務局まで  
ご連絡ください。

JDIAP学会事務局 担当：平尾  
住所：〒162-0801 東京都新宿区山吹町358- 5  
アカデミーセンター  
TEL：03-6824-9374／FAX：03-5227-8631  
Email：jdiap-post@as.bunken.co.jp

## 事務局改編のお知らせ

昨年まで、IAP日本支部の事務業務は「JDIAP  
学会事務局」、「金沢事務局」、および「東京事務局」  
の3箇所で行って参りましたが、この度の理事  
役員等人事の交代に伴って、後者2つを「IAP日

本支部事務局」として一本化して常任幹事の所属  
部署内に置くことになりました。「IAP日本支部  
事務局」では、主に運営庶務を扱うことになりま  
す。

入退会、年会費、会員情報の変更、USCAP機  
関誌（Mod Pathol, Lab Invest）の購読、HPなど  
に関連した会員の皆さまからのお問い合わせは、  
従来通り国際文献社に委託している「JDIAP学会  
事務局」が対応致します。

（IAP日本支部常任幹事 長尾俊孝）

## IAP日本支部入会のご案内

当支部では新会員を随時募集しています。会員  
の方には下記の特典があります。

- 1) 病理診断講習会受講料の割引  
（会員¥5,000、非会員¥10,000）
- 2) スライドセミナー受講料の割引  
（1コースあたり  
会員¥12,000、非会員¥20,000）
- 3) USCAP関係誌（Mod Pathol, Lab Invest）  
の年間購読料ディスカウント
- 4) NEWSLETTER等での情報提供 等

なお、入会金や年会費等は以下のとおりです。

	一般会員	シニア 会員	ジュニア 会員	非会員
入会金	1,000円	－	1,000円	－
年会費	6,000円	50,000円 (終身会費)	4,000円	－
病理診断 講習会 受講料	5,000円	無料	5,000円	10,000円
スライド セミナー 受講料 (1コースあたり)	12,000円	12,000円	5,000円	20,000円

(2024年4月)

- \*シニア（終身）会員：  
65歳以上で会員歴20年以上の現会員
- ジュニア（若手）会員：  
病理専門医資格の未保持者

まだご入会されていない方は、この機会にご入  
会いただきますようお願い申し上げます。

また、会員の皆様には近くにおられる非会員に  
是非ご入会をお勧めください。

お申し込み方法は、支部HP(<https://www.iapjapan>).

org) > 「Membership」をご覧ください。

参考：2025年1月現在の会員数  
1,008名  
うち一般会員 878名  
ジュニア会員 59名  
シニア会員 33名  
名誉会員 25名  
賛助会員 13名

## Upcoming Meetings

### 第114回USCAP Annual Meeting

日時：2025年3月22日（土）～27日（木）  
場所：Boston Convention and Exhibition Center,  
Boston, MA  
URL：https://2025am.uscap.org

### 第114回日本病理学会総会 コンパニオン ミーティング

日時：2025年4月17日（木）18：40～20：10  
場所：仙台国際センター（F-1会場）

### 第9回ふぁんだめんたる病理診断講習会

日時：2025年6月開催予定

### 第14回 Asia-Pacific International Academy of Pathology Congress

日時：2025年11月5日（水）～7日（金）  
場所：Centara Grand at Central Plaza Ladprao,  
Bangkok, Thailand  
URL：https://www.iapthailand.com/apiap2025

### IAP Hong Kong Division Scientific Meeting 2025

日時：Spring Scientific Meeting：  
4月26日（土）～27日（日）  
Fall Scientific Meeting：  
11月1日（土）～2日（日）  
場所：Prince of Wales Hospital  
URL：http://www.hkiap.org/upcoming-meetings

### IAP日本支部総会および教育セミナー

日時：2025年11月15日（土）  
場所：名古屋大学

### 第17回日韓合同スライドカンファレンス

日時：2025年12月5日（金）～6日（土）  
場所：北九州国際会議場（北九州市）  
URL：https://iap17th.com

### 第36回IAP Congress 2026

日時：2026年10月8日（木）～13日（火）  
場所：福岡国際会議場  
大会長：小田義直（九州大学形態機能病理学）  
副大会長：清川貴子（慈恵医科大学病理学）  
URL：https://iap2026.com

## JDIAP 賛助会員

賛助会員としてご支援いただいている下記の企業・団体様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。なお、賛助会員の年会費は50,000円であり、IAP日本支部の発行物などをご紹介させていただいています。私共の活動に賛同し、協力していただける賛助会員をさらに募集していますので、会員の皆様からのご紹介やご勧誘をどうぞよろしくお願いいたします。

一般社団法人シーピーエル  
株式会社キューリンパーセル  
株式会社組織科学研究所  
株式会社東京セントラルパソロジーラボラトリー  
株式会社フィリップス ジャパン  
アストラゼネカ株式会社  
アジレント・テクノロジー株式会社  
サクラファインテックジャパン株式会社  
フィンガルリンク株式会社  
富士製薬工業株式会社  
ホロジックジャパン株式会社  
メドメイン株式会社  
ライカマイクロシステムズ株式会社

## 編集後記

2025年になり、JDIAPは都築新会長のもと、新しい体制がスタートしました。ポストコロナとはいえ、医療機関内ではいまだにマスクを着用しなければならない日が続いており、新型コロナウイルス感染症の蔓延以前と全く同じ生活に戻ることはないのだろうと思います。

様々な集いが対面からオンラインやハイブリッドに変化し、会議の多くがオンライン開催される



ようになりました。小田会長のころから、従来の理事会に加えて毎月1回のwebによる役員連絡会が開かれるようになり、リアルタイムに相談ができるようになりました。いわゆるメール会議と比べても格段に質が高く、本会の運営にも大きく貢献しているものと思われます。

一方、学術集会やカンファレンスへの参加は、聴講する側からしますと、移動が不要であったり、アーカイブがあれば後日時間があるときに視聴でき、大いにメリットがあります。しかし、自分が発表する際には、相手の顔が見えない状況では、かなりの不安を覚えてしまいます。コロナの期間中、シドニーで開催された第34回IAP Congressで発表する機会がありましたが、現実感が乏しく、拍子抜けの感は否めませんでした。

JDIAPでは、昨年の日台に続き今年は日韓の合同カンファレンスが予定されています。さらに、来年はいよいよ福岡でIAP Congress 2026が開催されます。ぜひ対面で世界中の病理医と交流し、有意義な、なおかつ楽しいイベントになればと、期待致しております。  
(森谷卓也)

広報委員会	委員長	久岡正典
	副委員長	森谷卓也
	委員	近藤哲夫
	委員	渡邊麗子
	委員	大橋瑠子
	委員	孝橋賢一